

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム やちだもの家山岸①

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100402		
法人名	第一商事株式会社		
事業所名	グループホーム やちだもの家山岸①		
所在地	〒020-0004 岩手県盛岡市山岸4丁目24-1		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「つつがない毎日のご提案」を介護事業部共通理念として掲げ、毎日の生活を送っていく上で、私達職員がサービスの内容を決定していくのではなく、サービスの選択肢を示しながら、決定はご本人に行ってもらう事を重視しサービスを提供することを心掛けている。また、当施設に併設されているやちだも園の園児との交流が行われており、子供たちから元気や笑顔を頂き、いきいきと生活している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅密集地に立地する2階建て2ユニットの開設5年目のグループホームである。同一建物内には事業所内保育園が併設され職員が子どもを預けることができるなど、職員にとって働きやすい環境であるとともに、子どもたちの賑やかな声・姿は利用者者に喜ばれている。近隣住民とは馴染みの関係にあり、各種イベントを通じ交流を深めてきた。コロナ禍の現在は控えているものの、散歩に出かけた時に挨拶する等、限られた範囲ではあるが交流を続けている。身体拘束をしないケアに取り組むとともに、医療機関等との連携により、看取り体制も整っており、利用者が穏やかな最期を迎えることができるよう、また、家族も心おきなく見送ることができるように支援してきている。新型コロナウイルス感染防止については、基本的感染予防対策のほか、職員の県外往来、会食も控えている。コロナ禍以降、利用者と家族とのガラス越しの面会、テレビ電話でのリモート面会等の取り組みを行なうなど、家族からも高い評価を得ている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年2月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や社訓を施設内に掲示したり、会議の都度理念について指導している。また、理念に合わせたケアの統一が図れるよう、指導している。	理念に「あん」安心・安全、「しん」信頼・信用、「かん」感動・共感・感謝を掲げ、「つつがない毎日のご提案」として利用者主体の介護に取り組んでいる。ユニットリーダーが中心となり、ユニット会議での定期的な確認を通じてケアの統一を図りながら、利用者一人一人の思いに沿って、理念の具体的な実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、施設イベントや地域イベント、地域の資源回収やスポーツ大会にも参加していたが、コロナ禍によりほとんど出来ていない。	地域で例年実施されていたイベントは殆ど中止され、事業所での夏祭りなども縮小して実施した。コロナ禍にあり地域との交流は少なくなったが、地域の資源回収には職員が参加している。利用者が車椅子や徒歩などで日光浴も兼ねながら散歩にでかけた際には、地域の方々から気軽に声をかけていただいたり、野菜の差し入れなどをいただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も認知症カフェや認知症サポーターの開催を検討していたが、コロナ禍により見送りとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年、施設に町内会長等の委員を招いて運営推進会議を開催していたが、現在は書面での対応としている。頂いた意見はサービスに生かすよう努力している。	例年2か月に1回の運営推進会議を町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員の出席により開催していたが、コロナ禍の現在、参集することなく電話会議方式により入居者の状況、感染症対策等について報告している。	運営推進会議で参集することが難しいため電話により状況報告をしておりますが、例年の開催と同様に、電話による開催であっても事業所の運営状況等を資料として送付し意見を求める書面会議の形式も検討されることを期待します。また、その会議に家族の参加も期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービスの報告や制度で分からない事等、相談・指導を頂いている。	市介護保険課担当者とは事業所の運営状況について随時情報提供を行うとともに、制度に関することや感染症対策に関する助言指導を得ており連携は図られている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の手引きを職員の目に届く所に設置し、職員会議の都度、身体拘束の研修を行っている。	身体拘束に関する指針を作成するとともに施設長、管理者、各ユニットリーダー、看護師による委員会を3カ月に1回開催し、研修会も年2回開催している。玄関の施錠は夜間のみとしている。利用者の介護度も高くなり、日常生活動作も低下してきている中で、転倒防止等のために離床センサーを利用することもあるが、過度な利用にならないよう心掛けている。職員の声かけにスピーチロックが見られた場合は、その都度相互に注意しあいながらよりよいケアを行うよう努力している。職員のきめ細かな観察により、医師と協力して向精神薬の投与量を減らすことができるようになった利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際に研修を行ったり、不適切なケアを実践形式に指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様が入居している為、理解しやすい環境にあり、職員会議の際にも研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は現在の不安や今後の希望をお聞きし、専門用語を使用せず、分かりやすい説明をするよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から頂いた意見は、朝礼や会議を通して共有し、早急にサービスに反映できるよう努めている。	家族からは面会時に、意見・要望を聴き取るようにしている。利用者一人一人について、「とっておきの一枚」として写真に職員がコメントを加え、「やちだも通信」として月1回家族に送付し、要望等を出しやすいようにしている。家族や利用者から出された意見、思いはユニット会議などで協議し、職員間で情報共有しながら、ケアに反映させるようにしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の会話の中で意見を聞いている。また年1回個別面談を行い、現状確認や今後の目標を確認している。	年1回の個別面談、月1回のユニット会議で職員の意見要望を取り上げ、運営に活かしている。さらに「個人目標設定シート」を使って目標を設定し、6カ月後、9カ月後、1年後に確認と振り返りを行なっている。また、日頃の職員の気づきを提案として取り上げ、利用者の居場所づくりの具体化に向けて取り組む等、職員の気づきを日頃のケアに活かしている。本社の対応が必要な場合には、月1回本社で開催される施設長会議で提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	手当の見直しや環境整備を随時行い、職員の勤務状況を見ながら積極的に研修や資格の取得をサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加はもちろん日々のケアや社内研修で技術指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の研修会に参加したり、電話にて制度の仕組みを共有している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が困っている事、やりたい事等、日々の会話のなかで聞き取り、ケアプランに反映し全職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や契約の際にご家族様の悩みや要望を確認し、ニーズに合わせたケアの提案・提供を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の際にニーズや悩みを聞き、他施設・サービスのご提案など、ご本人様に合った支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの本質を指導し、食事の準備や掃除等、生活する上で必要なことを共に助け合いながら生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報共有を密に行い、LINEや電話を使用しご本人とご家族の関係を維持できるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は面会や外泊・外出の制限はしていないが、今年度は一定の条件下のもとに面会・外出を支援している。またテレビ電話等を利用し、ご本人・ご家族に少しでも安心していただけるようにしている。	コロナ禍にあり、家族とのドアガラス越しの面会、テレビ電話等、家族との触れ合いの場の設定や利用者本人直筆の年賀状を家族に送付するなど、利用者と家族の関係の継続ができるように支援している。終末期を迎えた場合には、感染症予防対策に十分配慮する等、一定の条件により、面会の場面を設けている。また、理容院に出かけることも控えているため、理容師資格を持つ職員が家族とも相談しながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ってコミュニケーションを取ったり、馴染みの関係ができるよう、席を替えたりするなど工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でもご相談頂いたり、当事業所を紹介して頂いたり、関係を継続している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や計画作成担当者がご本人様やご家族様から希望を聞き取り、職員と共有している。意思表示が難しい方は日々の生活の会話等から把握するよう努めている。	入居時にこれまでの生活歴などを把握した上で、個々の思いを汲み取りながら対応している。日頃の言動から思いを把握するように努め、利用者の何気ない行動から「居場所づくり」の提案があり、具体化に向けて取り組んでいる。意思表示が難しい利用者に対しては、声かけを工夫しながら思いを推し量り、申し送り、ケース記録等で情報共有している。本社事業としてベトナム技能実習生1名を受け入れており、利用者の思いなどを汲み取れるように、利用者との会話等について職員がきめ細かなサポートを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴などをお聞きし、入所されても大幅な環境の変化が起きないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活スタイルを観察しながら得た情報は共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や訪問看護、職員との会話の中で意見・情報をケアプランに反映させている。また6か月毎にご家族様にケアプランを説明・了承を得ている。	介護計画は、基本的に6か月毎に見直しを行っている。見直しに当たっては、日頃利用者に関わっている職員の情報や意見、訪問時に聞いた家族の要望、訪問看護師の意見等を踏まえ、計画作成者が計画案を作成し、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡ノート、医療ノートを用いて課題を抽出している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りや医療連携以外にも、訪問の利用サービスなど、ご家族様頂いた意見を参考にしながら対応している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前から宅配サービスや美容室を利用されている方などには継続して行えるよう支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望を聞きながら、ご本人様の状況やご家族様の要望に合わせて医療機関の選択をして頂いている。	入居前からの主治医をかかりつけ医とする利用者もいるが、半数以上が希望により事業所の協力医をかかりつけ医としている。受診に家族が同行できない場合には、事業所看護師が同行している。受診の際には一般状況を記載した医療ノートを持参している。受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結んでおり、連携先の看護師と情報を共有しながらアドバイスを頂いたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時も医療機関と情報交換しながら、スムーズに受け入れ出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの希望確認や説明を行い、職員や看護師などと情報を共有している。	重度化や看取りに関する指針を作成しており、入居時に利用者と家族に説明し、終末期には改めて意向の確認を行なっている。医療機関との連携により事業所開設以来数名の方の看取りを経験し、看取り後には、家族の思いに耳を傾けるとともに、担当職員の心のケアを兼ねたカンファレンスを開催している。看取りに関する研修は看護師が中心になって行っており、現在、看取り事例集の作成にも取り組んでいる。利用者が穏やかな気持ちで最期を迎えることができるよう、また家族も心おきなく最期を見送ることができるよう、職員一丸となって取り組んでいる。	医療機関等との連携のもと、開所以来数名の方の看取りを行い、看取りの経過、ご家族の思い、職員の思い等の振り返り等を丁寧に行なっております。今後とも引き続き、職員一丸となってご利用者・ご家族が安心して最期の場面を迎えることができるよう支援されることを期待します。

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成したり、AED講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行い、運営推進会議にて災害時の対応について検討しているが、令和2年度はコロナの流行により消防署の立会いが難しく、自治会の提案で地域の方々の声掛けを控えている	当初の予定では消防署の指導を得ながら地域住民の協力、参加も予定していたが、コロナ禍のため、事業所のみで夜間及び停電を想定した訓練を実施した。課題も明確になり、その解決に向けて具体的に取り組むこととしている。数名の職員が事業所近隣に住んでいるため、非常時に参集しやすい状況にあり、また、町内会の支援体制も整えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の尊厳を傷つけないよう、日常の声掛けや介助方法に配慮している。またユニット会議や職員同士で検討を行っている。	職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって接し、利用者を尊重した声掛けや、プライバシーを損ねない介助に努めている。利用者の呼び方については、入居時ご希望をお聞きし対応している。ユニット会議で具体的な声かけやケアの方法について、振り返りながら意見交換を行い、ケアの向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が話しやすいようクローズドクエスションを使用したり、ご本人様が判断できない際は、ご家族に相談したり、生活歴に合わせて対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活スタイルや意向に合わせた提案をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度の散髪、ヘアカラーや日々の身だしなみの支援など、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や手づくりおやつを提供を定期的に行っている。またおしぼりたたみやテーブル拭き、配膳準備など出来る範囲で手伝って頂いている	ご飯、みそ汁は事業所内で職員が調理を行い、副食は業者からの冷凍の食材をその日のメニューに合わせて調理し、デザートは職員がひと手間をかけている。利用者の状況に合わせて、普通食、刻み食、とろみ食、ミキサー食等も提供している。おやつは手作りとし、毎月の誕生会、行事食は職員が中心になって準備している。利用者にはおしぼりたたみ、テーブル拭き等、可能な範囲で手伝って貰っている。食事の際にBGMを流すなど、寛いだ雰囲気の中で食事ができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量チェック表を活用し、その方の嗜好に合わせた飲み物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、本人に合った歯ブラシを使用し、状況によってご家族様と相談し訪問歯科診療を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。	排泄が自立している利用者もいるが、殆どの方が何らかの介護用品を使用している。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の様子をみながら、その人の状況に合わせて誘導・介助している。トイレでの排泄介助の際には、適切な座位保持、手すりの活用等も行い、快適な排泄ができるようケアしている。きめ細かな排泄ケアの結果、リハビリパンツから布パンツに変更できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護と相談しながら、適正な水分量を提供し、軽体操を実施している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	基本的に週2回の入浴ではあるが、状況に合わせて回数を増やしたりしている。本人の状況に合わせて、手浴・足浴を行っている	1階に特浴、2階に一般浴があり、利用者の介護度に合わせて利用している。基本的には週2回の入浴回数ではあるが、利用者や家族の希望により週3回の場合もある。体調により足浴、手浴、清拭等利用者の状況に合わせて介助するとともに、入浴介助に際しては、全身の皮膚状況の観察も行いながら清潔保持に努めている。入浴時には、ゆったりとできるよう声かけをしながら介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家具や衣類の持参制限はしておらず、使い慣れたものを持参頂くようにしている。安心して過ごして頂ける環境整備を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携先の薬剤師から薬の説明をしていただき、職員が分かるよう連絡ノート等で周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の趣味や得意な事、苦手な事を見つけ、それが継続して行えるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年だと積極的にご家族との外出を支援しているが、コロナ流行に伴いご家族様と相談して外出を控えている。天気の良い日は駐車場周辺や近隣を散歩している。	例年は、花見、紅葉狩り、ミニドライブなどの外出の機会があり、家族と定期的に外出する利用者もいたが、コロナ禍以降は控えている。なお、感染が一時期落ち着いた時点で家族と外出した利用者もいた。遠出ができない状況にあるが、天気の良い日には気分転換を兼ね近隣へ散歩に出かけたり、駐車場内を散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に現金の所持をご家族と相談し、本人・ご家族の意向を確認している。今後は外出の際などにお金を使う機会を作っていきたい		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やちだもの家山岸①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話やLINEを活用してテレビ電話をしたり、年賀状のやり取りを支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感があるよう毎日清掃を行い、時期によっては加湿器を増やし湿度管理も行っている。また季節に合わせて作った作品を掲示している	車椅子利用者も移動しやすいように、ホール内は生活に無縁のものは置かないようにしている。24時間換気をしている。利用者同士で作成した季節に応じた作品をホール等に掲示している。掃除は毎日朝食後に職員が中心になって行い、利用者が一緒にモップかけを行うこともある。利用者はそれぞれ思い思いの場所でゆっくりと過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの方と居室で過ごしたり、ソファや少人数のテーブル、椅子を設置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設に入居される際、ご自宅で使われていたものをご持参いただき、大幅な環境の変化がないように工夫している。	各居室には、ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けられ、位牌、家族の写真等、利用者の希望で持ちこんでいる。また、同じ建物内の保育所園児が作成した折り紙の花、園児の写真などを飾り付けた名札を入りに飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に歩ける様に足元の環境を整備したり、居室扉に名前を貼り自分の居室が認識できるようにしている。		